

第2回城陽市上下水道事業経営審議会 意見集約

		意見要旨	回答要旨	取扱方針(案)	本編修正		
全 般	1	現行水道ビジョンの評価と新水道ビジョンの目標は分けて議論しないのか。	新水道ビジョン案には、過去10年間の評価についてもほぼ網羅されており、あわせて議論や意見を言っていたら良かったが、非常にわかりやすいと考えている。 新水道ビジョンとあわせて議論していただけたほうが議論が散漫になることもなく、また項目ごとに絞ることにより、重点的に議論もできると思う。	-	-		
	2	経費の節減効果については、具体的な数値で評価すべきではないのか。	毎年度同じ工事は行わないことから、個々の評価は難しい。	-	-		
安	3	市民感覚では、おいしくないイコール安全ではない。 おいしく飲んで安全であるということをはかして情報として出す必要があるのではないか。	-	「おいしい水」は個人的な感覚によるもので、上下水道部としては、水源の監視や水質検査の実施など、安全の先にあるものであり、安全な水道水を目指すものである。 新水道ビジョン案の項目として記載することは、しないが、おいしいと言われる水道水は、城陽市の売りの一つである。 コラム的に城陽市の地下水の話や、水道水をおいしく飲む方法、水道水を使っておいしくお茶を飲む方法など記載する。	P. 6 P. 47		
	4	においや味は、一般市民として気になるところ。 浄水器をつけて独自に対処しているところもあるが、そのあたりは、新水道ビジョン案で触れているのか。	新水道ビジョン案では具体的に記載している項目はない。 浄水器の維持管理についての問合せはあるが、一般的な答えのみ行っている。 水道水は浄水器を通さなくても飲める水であることを説明している。				
	5	おいしい水の議論も必要だが、まずは安全な水道水としての水質管理を続けることの必要性を記載すべきではないか。	おいしいには個人の感覚的なものもある。 おいしいといっていただけのことではありがたいが、新水道ビジョン案では安全を一番に考えている。				
	6	安全とおいしい水の関係を記載すべきではないか。					
	7	個人の感覚の部分をビジョンに入れるのはいかがなものか。					
	8	鉛給水管がなぜダメなのか、懇切丁寧に説明しているのか	鉛給水管に対する影響については、ホームページや広報などでお知らせしている。			-	-
	全	9	水質の管理、モニタリングについて記載すべきではないか。			-	本編「⑥貯水槽水道の指導」を重点施策とし、具体的な取り組み事項について、修正する。
10		貯水槽水道のあり方について検討すべき。	水質・衛生上の観点から早くから直結給水やブースターポンプによる直結給水に取り組んでいる。 末端給水まで責任を持つということについては、非常に重要なことと認識しているが、そこまで踏み込める段階に至っていない。				
11		台帳の活用目的は何か。	清掃、水質検査、点検などについて、台帳に基づき、文書により助言、指導を行っている。	-	-		
12		貯水槽水道はなくす方向か。 受水槽は災害時の応急給水として利用できることもあり、ゼロすることはどうか。	一概に受水槽をなくすということではない。 病院のようにどうしても水を止められない状況を持っているところもある。 管理をしっかりとやっていただくということである。	-	-		
13		薬品管理や情報公開の充実がビジョンに掲げる目標として少し弱い。	-	安全の重点施策として「⑥貯水槽水道の指導」を追加する。	P. 42 P. 45		

	意見要旨	回答要旨	取扱方針（案）	本編修正	
強	14	施策については、優先順位を付すべきではないか。	取り組むべき施策を体系的に明示し、そのうち優先的に取り組むべきものを重点施策、更に優先的に取り組むべきものとして最重点施策を定めている。 それ以外の施策も取り組むべき施策であり、順位付けは難しい。	—	—
	15	基幹管路の耐震適合率を24.1%から70%に引き上げることを目標としているが、この程度でよいのか。	財政上の問題もあるが、70%に引き上げることで、主要な浄水場、配水池、ポンプ所を結ぶ基幹管路は、ほぼ賚ることができ、一定の機能を果たすことができる。	回答内容をベースに、本編「②基幹管路の耐震性の確保」の説明内容を修正し、「基幹管路の耐震化計画（概要）」の図面を追加する。	P. 50
	16	基幹管路の耐震化率を70%に持って行くのに、どれくらいの距離、経費がかかるのか、議論の前提として、具体的な数値を示してほしい。	施工距離は17.8kmを予定している。 管路の耐震化に対する事業費として、年間3億5千万円から4億円程度を予定している。	目標設定において、具体的な数値を示しているものについては、その考え方について、別途資料を作成する。 なお、財源部分については、部会において検討する。 ※ 施工距離は、平成28年度決算から平成39年度までの数値であり、新水道ビジョン計画期間中（H30からH39）の施工距離は13.7kmとなります。	
	17	耐震化と更新とあるが、二重投資になっていないか。	耐震については、年数に関わらず、震災に備えるために替えていくもの、更新は法定耐用年数を過ぎたものを順次入れ替えていくものであり、二重投資ではない。	耐震化はどういったものか、例示として水道管の耐震化についてのコラムを掲載する。 目標設定において、具体的な数値を示しているものについては、その考え方について、別途資料を作成する。 本編「②適切な管路の更新」の説明内容を修正する。	
	18	耐震化と更新の定義を示すべきではないか。			
	19	更新率の場合、毎年0.5%しかない。分母分子がどうなっているかにもよるが、定義をきうまく説明されるとH39の計画完了時の経年化の状況や耐震化の状況が非常に分かりやすくなる。	—	—	—
	20	城陽市の想定地震を明記すべきではないか。	—	本編「②基幹管路の耐震性の確保」の説明内容を修正する。	P. 50
	21	目標設定している具体的な数値は示すべきではないか。	—	—	—
22	目標設定がわかりやすくするための検討をすべきではないか。	—	目標設定において、具体的な数値を示しているものについては、その考え方について、別途資料を作成する。	—	
弱	23	水循環のシステムはあるのか。	一度使った水をさらに高度処理して使うシステムはない。	—	—
	24	水道料金は据置きか、料金改定を見越したシミュレーションなのか。	まずは、目指すべき方向性について議論し、その後、財源のあり方について議論したい。	部会設置により詳細を検討する。	—
	25	料金回収率（徴収率）は。	99.9%でほぼ100%である。	—	—
	26	施設の更新、配水管の整備が優先していただきたいが、費用もかかってくるので、水道料金も良く考えた上で設定してあげたら、と思う。	—	財源については、部会設置により詳細を検討する。	—
	27	人材確保と人材育成について、この10年間にうまく回るのか。	採用と人事異動が本庁と一体となっており、人員確保もままならない状況である。 人員配置等についても、人事担当部局に要請している。	人員配置等については、人事担当部局にその都度働きかける。	—
	28	中途採用（社会人経験者）はあるのか。	中途採用を行った実績はある。 採用については、人事担当部局に働きかける。		—
	29	水道事業は、施設張り付き型の事業であり、必要な職員数はうまく説明し、確保しなければならない。	—	—	—
	30	城陽市の小学生が水道のことを勉強する機会はあるのか。	毎年、小学校4年生が施設見学に来ている。 その時に、水の大切さや安全、浄水場の仕組みなどのについて説明している。	本編「⑩広報活動の充実」の説明内容を修正する。	P. 58
31	水道に対する学習については、情報公開の一環なのか、教育の一環なのかかわからないが、積極的に進めていくべきではないか。	小学生の施設見学以外にも、出前講座というものがあり、市民からの要請があれば公民館等へ出かけ、説明をしている。 また、大学や研究機関が来庁されることもあり、今後とも充実していきたいと思っている。			